

コベルコ建機株式会社

1. 会社の概要

- (1) 会社名：コベルコ建機株式会社
- (2) 所属部会：関西金属機械部会第1分科会
- (3) 業種：機械製造
- (4) 資本金：16,000百万円
- (5) 従業員数：4,390名（グループトータル）
- (6) 営業品目：建設機械，運搬機械の製造販売並びにサービス
- (7) 経営理念

「当社は、ユーザー現場主義に基づき、真に価値ある商品，サービス，情報を提供することで顧客の満足に応えるとともに，豊かな社会の建設に貢献する。」

<行動指針>

当社にとって、顧客の満足に応え社会に貢献することが経営理念とするならば、我々の全ての行動はこの理念に沿うものでなければならない。

1. シンプル

社会における使命と役割を充分認識し、是々非々を明らかにした公明でシンプルな行動をめざす。

2. スピード

日々独創性と感性の研鑽に努め、顧客と時代の要請にスピードをもった的確な対応をめざす。

3. オープン

互いの人格と個性を尊重するとともに公正を旨とし、オープンで活気あふれる自由闊達な社風の醸成をめざす。

(8) CIマーク

コベルコ建機株式会社

(9) 神戸製鋼グループブランド



2. 知的財産部門の概要

(1) 組織上の位置及び名称

「開發生産本部技術管理部知的財産グループ」となっており、位置づけとしては開発部門の一部となっている。但し、予算面では開發生産本部から独立して本社予算とすることにより、知財部門としての独自性を確保すると同時に、グループ会社も含め、全社の知的財産、技術契約等関連業務を担っている。

(2) 構成及び人員

知的財産グループ構成員は技術管理部長を除き5名であり、この少人数では役割分担もままならない状況。オールラウンダーにならざるを得ず、それでいて専門性を上げなければならない、というジレンマに苦しむ今日この頃。

(3) 沿革

当社は、長い歴史をもつ(株)神戸製鋼所の建設機械事業部門と、油圧ショベルメーカーであった油谷重工(株)および販売会社であった神鋼コベルコ建機(株)が1999年10月に統合されて設立された会社である。

当社の知財業務体制は、油圧ショベル関連の知財管理を行っていた油谷重工(株)の業務運用をベースとしてこれを発展継続したものであり、一部(株)神戸製鋼所の助力を得ている。

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

3. わが社の知的財産活動

(1) 開発部門との一体化

開発生産本部に属するという地の利を活かし、知財担当者が開発の初期段階から開発プロジェクトに入り込み、早期に問題他社特許の把握とリスク回避の方向性を定め、またコンセプト段階での発明抽出を行うよう努めている。

発明抽出から特許出願に至る過程においても、知財担当者が発明者と一緒に先行技術との差異等を考えながら、出願の方向性を定めている。

この活動では開発と知財の担当者間の距離が縮まり、情報共有がスムーズに行えている。

その反面、知財担当者が細かなところまで手を出し過ぎる傾向があり、開発担当者の知的財産レベル（知識、当事者意識、取り組み姿勢等）が高まらないという潜在的な問題があることが認識されている。

(2) 開発段階に応じた知的財産活動

開発着手、試作出図、量産出図等の各ステップで、知的財産レビューを行うことがISO9001対応の品質活動に織り込まれている。開発部門とともに特許リスクの消し込み、発明抽出と出願といった作業を可能な限り上流で行い、これらの状況を所定のフォームにまとめて各ステップで報告する。

これにより、特許網の構築状況や特許リスク（経営に与えるインパクト）等について、社内各部署との情報共有化を図っている。

ただ、開発案件により、これらの取り組み状況にバラツキが生じているところが、大きな課題となっている。

(3) 開発スケジュールに沿った出願計画

以前は出願件数を一定量以上確保することに重きを置いた発明抽出活動を行っていたが、近年では、開発スケジュールに沿った出願計画を立て、これを実行するように努めている。

複数の開発が同時並行で進められることが通常であるが、個々の開発案件について上述した

ステップごとに「あるべき出願件数」を定め、この達成を目指すことで、漏れのない、また無駄の少ない発明抽出活動を行うことができる。

ただ、現在のところ「あるべき出願件数」の予測精度が低く、計画と実際の出願件数の間に乖離が生じており、予測精度向上と発明抽出活動のさらなる充実が課題となっている。

(4) 知財情報管理

当社では少人数の知財担当で業務を行っているため、業務効率を高める必要がある。このため他社特許情報のデータベース化などのシステム化にかなり早くから取り組んでいる。

調査の効率化、高精度化のため、油圧ショベル関連出願すべてに社内分類を付与しているが、これは1985年頃から継続して行われている。さらに1996年には公報のフルテキストサーチが行えるシステムを導入し、同時にCD-ROM公報発行以前分もクレームのみテキストサーチできるように、公報DBを構築している。

現在では、イントラネットにより、開発担当者もこのDBの検索が行えるようになっている。

このように油圧ショベルに特化したDBを構築し、利用環境を整えることで、他社特許リスクの把握、出願前先行技術調査等、事業または開発側のニーズに沿ったスピードと品質で調査を行うことができている。

なお、管理系システムについても、電子包装システム、発明報奨金システム等を連動させた出願管理システムを構築し、運用している。

4. 今後の課題

グローバル化する環境下でコベルコ建機グループ全体の知的財産業務、技術契約業務を戦略的に行うため、人材の確保と育成が急務となっている。また、社内各部門、グループ各社における知的財産意識のさらなる向上を図っていく必要がある。

（原稿受領日 2008年6月12日）